



第2章 首都東京を支える水道

2-1 首都としての東京

2-2 東京における水道の重要性



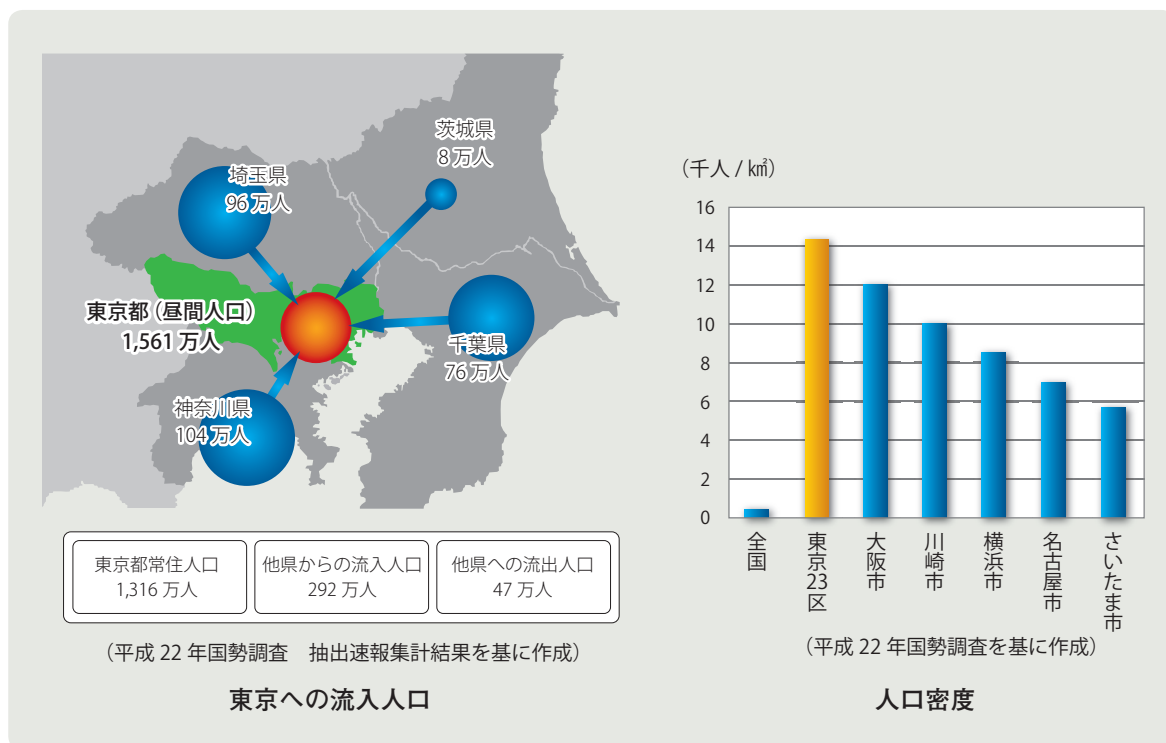
第2章 首都東京を支える水道

将来にわたって首都東京の暮らしや都市活動を支え続ける水道施設を構築するためには、東京における水道の重要性を十分に踏まえた上で、将来の様々なリスクから首都東京の水道施設を守るために必要な「安全度」を検討していく必要がある。

このため本章では、首都としての東京の位置付けや水道の重要性について改めて整理する。

2-1 首都としての東京

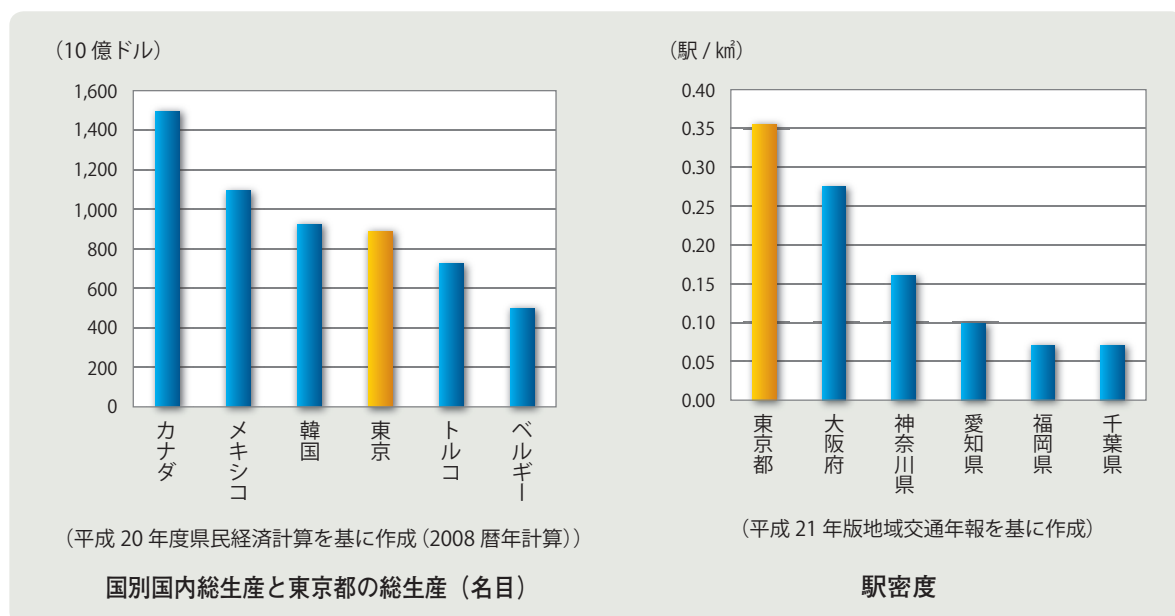
東京は、約 1,300 万人の都民に加え、日々他県から約 300 万人もの流入があり、昼間は約 1,600 万人の人々が活動を行う大都市である。特に、東京 23 区の人口密度は、日本全体の平均の約 40 倍となっており、政令指定都市と比較しても高いものとなっている。



また、霞が関、大手町等を中心に、国会、各省庁、裁判所等、立法・行政・司法機関が集中し、国政機能の集積地となっているばかりでなく、多くの本社機能や銀行等の金融関連施設が存在し、ビジネスの中心地となっている。膨大な人口を抱えている上、商業都市でもある東京の総生産額は、一国に匹敵するような巨大な規模となっている。

さらに、道路、鉄道、空港、港湾などの交通基盤、多くの病院・福祉施設や商業施設等が存在しているなど、都民生活や都市活動に不可欠な社会資本が高度に集積している。

加えて、日本の首都であることを背景に、各国の大使館が立地していることもあり、国際ビジネスや文化の交流拠点といった国際都市としての機能も有している。



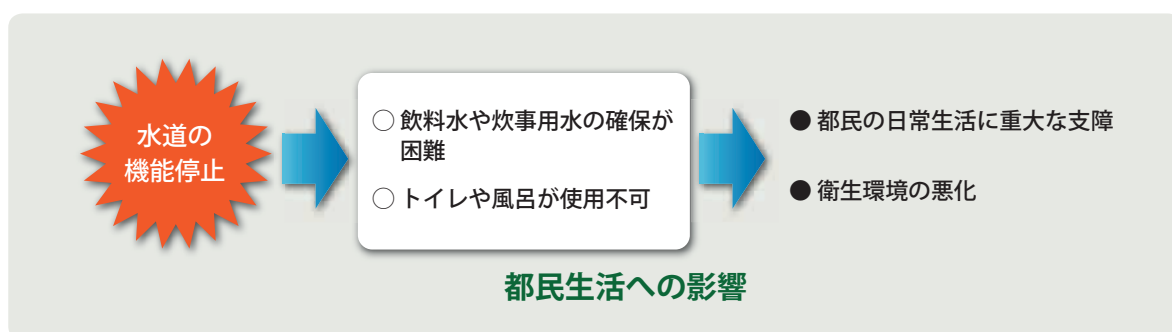
第 4 回 IWA アジア太平洋地域会議※1 の主会場 (左) と会議の様子 (右)

※ 1 IWA アジア太平洋地域会議：国際水協会（IWA; International Water Association）のアジア太平洋地域における上下水道及び水環境に関する国際会議

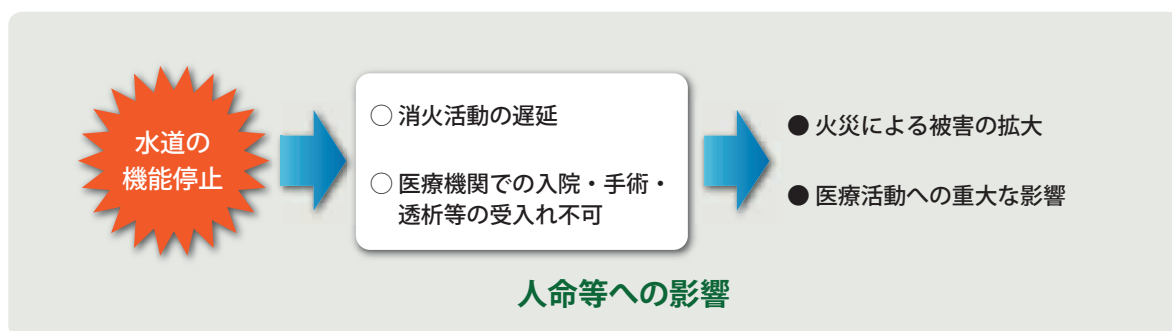
2-2 東京における水道の重要性

都民生活や都市活動を根底から支えているのは、電気、ガス、水道、下水道等の基幹的なライフラインである。中でも、水道水の安定的な供給は、首都機能を支える上で欠くことのできないものであり、東京の水道機能が停止した場合には、多大な影響が予想される。

都民生活においては、飲料水や炊事用水のみならず、入浴、洗濯、手洗い及びトイレの使用などにも支障を来し、衛生環境に悪影響を及ぼす。



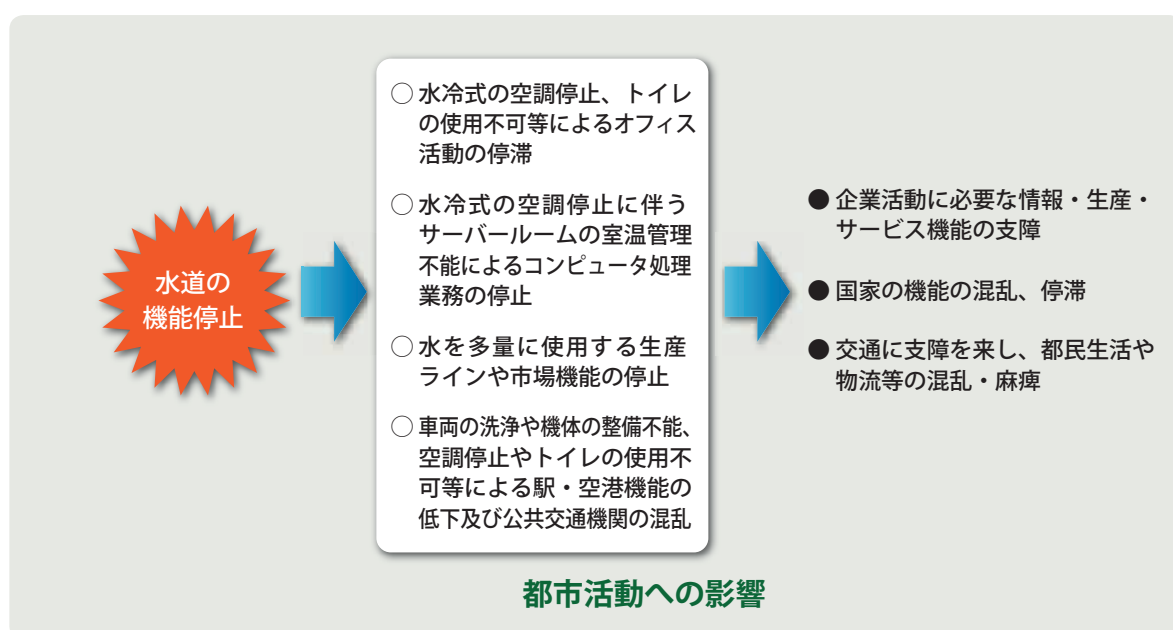
断水により消火用水の供給が滞れば、火災の発生時に延焼が広範囲に及ぶほか、断水が長期にわたる場合には、医療活動などにも影響を及ぼすなど、多くの人命が危険にさらされることになりかねない。



都市活動においては、断水の長期化に伴い企業活動に必要な情報・生産・サービス機能などが軒並み影響を受けるとともに、立法・行政・司法という国家としての機能が停滞することとなる。

また、交通に支障を来し、都民生活や物流等の混乱や麻痺を招く。

東京の社会経済活動の停滞は、日本全体の経済活動にも大きな打撃を与えるだけでなく、世界の経済活動へも影響を与えかねず、日本という国家そのものの信頼性を低下させる恐れすらある。一度失った国際的信用を取り戻すことは容易ではなく、その影響は計り知れないものとなる。



このように、首都東京において水道機能が停止することは、都民生活を混乱させ、人命を脅かす恐れがある上、都市活動が停滞すれば、東京のみならず日本全体にとって甚大な損害を生じることにつながる。首都東京が機能を発揮していくためには、将来にわたる安定給水が不可欠である。

したがって、水道施設の再構築に当たっては、長期的視点に立って将来起こり得るリスクを十分考慮し、それらに適切に対応できる安全度を備えていく必要がある。

